

### 令和2年度マダイ中間育成・放流結果

今年のマダイ中間育成は、田子で6月9日、網代で6月10日に種苗を海上生簀に搬入する沖出しを以て開始されました。両地区の沖出し尾数は、網代が40.5万尾、田子22.5万尾と計画通りで、例年通り沼津の温水利用研究センターから種苗が供給されました。沖出し後の種苗は、およそ40日の飼育期間を経て、放流目標サイズの尾叉長60mmを超えたため、田子で7月20日、網代で7月21日に放流尾数を確認する計数作業が行われました。なお、コロナ対策として、全員がフェイスシールドを着けての作業となりました。



田子の漁業者による計数作業の様子

マダイ中間育成の歩留り目標は66%となっています。昨年、一昨年は、沖出し当日からの給餌、早朝の給餌、また餌の量そのものを増やすなど、飼育方法の改善に取り組みました。その効果もあってか、両地区ともに2年連続で歩留り目標を大きく上回ることができました。両地区の飼育担当者は、3年連続での歩留まり達成を目指し、種苗の様子に注意を払い日々の飼育に取り組みました。

表1に両地区の中間育成の結果を示しました。歩留りは、田子が86.8%、網代が74.0%と3年連続で目標を大きく上回ることが出来ました。今年の中間育成の状況ですが、沖出し時の種苗サイズが小さかったためか、生簀への搬入時には例年より多くの斃死が見られました。また、網代では、沖出し直後から1生簀あたり1日数十尾の斃死が続き、6月19日からはビブリオ病と滑走細菌症の混合感染が発生しました。ただし、迅速な投薬と網替えの対応により、斃死は数日で沈静化しました。その後は、病気の発生などのトラブルはなく、順調に生育しました。

伊豆地域への放流尾数は、網代から29.9万尾、田子から19.5万尾となり、各地区の放流尾数は表1の通りになりました。県内のいくつかの地先では、港内が放流場所となっています。これは港内が、水深の浅く、波浪の穏やかな海域であり、放

流直後の減耗を低く抑えることができる放流適地と考えられるからです。港内で小型のマダイが釣れた際には、海へ再度放流をしていただくようお願いします。

表1 令和2年度マダイ中間育成・放流結果

		網代		田子			
沖出し	月日	6/10		6/9			
	尾数(尾)	405,000		225,000			
	平均体重(g)	0.22		0.23			
	平均全長(mm)	27.40		26.50			
	生簀数(面)	16		8			
計数	月日	7/21		7/20			
	尾数(尾)	299,800		195,400			
	生残率(%)	74.0		86.8			
	平均体重(g)	7.7		5.4			
	平均尾叉長(mm)	71.2		65.8			
放流	場所	月日	尾数	場所	月日	尾数	
		初島	7/28	4,000	南伊豆	7/20	44,800
		大熱海	7/30	15,300	松崎	7/20	15,500
		網代	7/28	82,400	仁科	7/20	48,900
		宇佐美	7/28	23,500	田子	7/20	49,700
		伊東	7/28	74,300	安良里	7/20	13,500
		川奈・富戸	7/28	17,700	土肥	7/20	23,000
		稲取・河津	7/31	36,200			
		下田	7/29	46,400			

(鈴木聡志)